

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678600125
法人名	社会福祉法人 潤生会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋瀬久井西8番地3 (電話) 0997-73-1311
自己評価作成日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームは、楕円形でドーム型に建ち、部屋ごとにトイレと洗面所が設置され、食堂と活動の場が一つになっていて、大きな声がいつも響いております。
お風呂のない日は、水分補給後リハビリで下肢強化運動に励み、平行棒は常に運動が出来る状態に設置されております。
入浴は週3回と成っておりますが、希望や状況に応じていつでも入れる体制にあります。
お食事は、栄養士の献立で栄養たっぷりの手料理、時にはお隣から頂いた食材や、利用者の希望に応じ寒い時には、島の山羊汁や鶏汁、魚汁でおもてなし。
利用者が、何時も楽しく笑顔で生活できる様職員は頑張って折ります。
森では、四季折々野鳥のさえずりが聞こえさわやかな一日の始まりを教えてくれます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは一日の仕事の始まりに理念唱和後「職場の教養」の冊子を用いて、気持ち新たに取り組めるよう工夫している。
- 職員の提案で、利用者個々の発声を出し易くする為にカルタ取りやカラオケ等を楽しんでいる。遊び感覚でのボール蹴り等の支援も取り入れて、ホールには利用者と職員の笑い声で和やかな雰囲気が感じられる。
- 利用者の下肢筋力アップに繋げる為に立ち上がり訓練や平行棒を使用して歩行や立位の安定・維持向上などに繋げている。
- 職員の要望に応じて利用者の急変時に備えてAEDの使用方法等を救急専門員から学んでいる。
- 職員からの提案で感染症対策として、ホーム玄関横に来客用の手洗い場を設置し、嗽や手洗いをしてもらった後に更にホームの出入り口に手の消毒とマスクを用意して外部からの風邪やインフルエンザの感染予防対策を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングは理念の唱和から始まる。今日の日をどのようにして利用者と過ごすか、地域に貢献するかを話し合い実践に繋げている。	毎朝のミーティング前に理念を唱和し、共有している。地域の一員として地域住民との交流を進める事や利用者の持っている能力を引き出せるように唱和する事で実践に繋げられるよう確認している。日曜日には利用者・職員が参加してホーム前の道路の清掃を地域住民と一緒に行い、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体施設敷地内に保育園が出来夏祭り、運動会は地域の方達と一緒に行事を楽しむ事が出来た地域の子供達と楽しく七夕作りもできた。	自治会に加入し、毎年開催しているクリスマス会に地域住民の参加で利用者と一緒に楽しんでいる。七夕飾りを地域の子供達と一緒に作りながら交流を楽しんでいる。体験学習の受け入れや近隣住民からの野菜の差し入れもあり、日常的に地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	講師を招き、成年後見制度、認知症の専門性に向けた研修を、地域に呼びかけ母体施設で一緒に学べる場を今後も検討して居る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に2ヶ月事の現況報告をしている。台風の日に初めて母体施設に避難した経過報告や反省等を話し合う事が出来、感染症対策等面会者の対応についてアドバイスもいただいた。	運営推進会議を定期的に開催し、利用者の身体状況の報告や利用者に関わっているサービス状況の説明等を行っている。外部評価についても報告し、事業所選択は交通費や宿泊費がかからない事業所を選択している事も説明している。感染時期の面会者の対策についてや避難訓練時に運営推進会議参加者にも呼び掛けて欲しいなどのアドバイスがあり、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	推進会議への出席、災害避難訓練時の体制作り等市町村職員と連携を密にして手がけている。毎月のケア会議も積極的に参加協力体制を築くように取り組んでいる	利用者の更新時に足を運んで町担当者にホームの実情やケアサービスの取り組み等を伝えていている。運営推進会議の時にホームの様子を見て頂き質問に対し説明している。町主催の研修会には毎回、参加する等の協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を母体施設合同で行い報告は潤生会職員会にて全員に報告される。利用者が自室を自ら施錠する事があります。玄関は夜勤者交代時、運動会等留守時にする事以外は施錠しないケアをして居ます。	身体拘束をしないケアについての研修を受けた職員がマニュアルを基に職員会で報告を行っている。母体施設との合同研修会にも職員が参加している。日の玄関の施錠は行っておらず夜間のみ施錠している。外出を好む利用者の雰囲気を察し職員の連携でホーム内外を自由に行動できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止・虐待防止委員会として同時にたれている。日常発して居る言葉掛けも虐待にならないよう気配りし注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	29年6月に母体施設で専門員に寄る人権擁護研修会がもたれ自立支援事業の実態などを聞く事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書に添って説明して居るが入院して解約に繋がると行き場が困る事、介護度が変わる時は利用料に変更がある事等説明して理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の生活や預かり金、訪問時の診察結果等はお手紙で知らせ、職員も利用者の生活状態等家族に話す事が出来る様取り組んでいる	家族が職員と気軽に会話ができるように家族会を1年に1回行つており、クリスマス会でも利用者・家族・職員等の会話ができるよう席をもうけ、生活状況、要望等を伝えていている。家族からもインフルエンザの情報が聞けたり、衣類についての要望や皮膚保湿の為のクリームが送られ入浴後に塗布して欲しい等の要望があり、情報や要望は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の要望は必要と感じたら直ぐ実行に移す代表者です。常に職員の事を気に掛け何でも話せる職場作りに勤めています。</p>	<p>職員会は月1回あり、職員から意見や提案などが多く出されている。移動シートの購入の要望や体圧による衣類やシーツのシワを取る手袋の購入提案や感染症対策として来客用の手洗いやうがいが行える設備などの意見が出ており出された意見や提案は運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は毎日職場に来て利用者のすごし方、気づいた事等指摘し働きよい環境作りに声を掛けてくれます。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は会議の中で資格をもつて仕事に励む事の大しさを常に話し、法人で専門資格を持った講師を招き勉強の機会を設けている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>母体施設や他事業所の介護技術の研修を受けた方を施設に招き移乗、移動、拘縮予防の新しい方法を学びサービスの質の向上にとり組んでいる</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用は本人より家族の希望で入所される事、初めての場所で戸惑う方があり、生活をしながら本人の困っていること、不安、要望等を見聞き、信頼関係を気づく様にして居る		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族の困っている事、利用者の生活習慣などを聞き安心して生活が出来る関係作りに努めている		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	施設で出来る事、出来ない事を利用開始時に話し合い、家族の協力も得る要にして居る。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	昼の食事は職員も利用者のテーブルで一緒に話をしながら頂き和やかな生活の場面作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	具合が悪いと言えず部屋に閉じこもる親に娘へ電話で声を聞かせる様に依頼、娘の電話で利用者の容体変化が分かり救急搬送に繋げた事もあり家族の大切さを感じた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	尼崎に子供が居るよと笑顔で話す利用者、逢いに来た事は直ぐに忘れてしまう、だが一時の笑顔を取り戻す機会をもっと増やして行き、関係を大切にしたいです	親族と一緒に食事に行ったり、お盆を利用して故郷巡りや母体施設の友人に会いに行ったり、子供達に電話をかけて会話を楽しむなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。食材の買物の時に馴染みの店と一緒に買物に出かけたりしている。年に1~2回利用者が葉書を家族に出て喜んでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は全員同町出身者、以前隣近所に住んでいた人、ご主人が同じ職場と言う事で顔見知りの方達の集まりの場、下膳を手伝ったり懐かしく話し込んで居る場面が常に見られる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情によりやむなく退所された家族から利用料支払い方法の相談にのり退所後も良い関係作りができ、今後も支援していくけるよう大切にしたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>会話や仕草から思いを察し、職員で出来る事は本人を交えて済ませ、安心感を持たせる様に対応し、困難な場合は家族の協力も得て希望に添うよう努めている。</p>	<p>馴染みの場所や本人の好きな所に職員と一緒に出かけている。利用者の思いや意向を把握できた時は職員会で報告している。利用者の表情や会話がなく、行動が荒くなったりする時に家族に電話して面会に来てもらい表情が明るくなったり、落ち着きを取り戻す利用者もいる。把握が困難な時は家族等にも相談しながら本人中心に検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初期の中で生活暦や病歴、状態を職員全体で話し合いサービスに努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>だめ、だめの言葉は努めて使わないように自分で出来る様見守り意欲の持てる支援をしています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者はどの様な生活を望むか、どのような暮らしを望んでいるかを本人と家族を交え話し合い、計画作成につとめている。</p>	<p>面会時に家族の要望を聞いたり、本人や職員からも聞き取りを行い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回行っており、身体状況に合わせて、その都度介護計画も変更しており現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分・健康・内服・活動排泄を個別記録で一覧、ミーティング時に情報を提供、休みの職員にも申し送り帳で状況を共有し記録に残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化などが観られた時は昼夜を問わず早めの対応が出来る様心がけ対応して居る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症流行期間中は地域の行き付けの理美容院に来てもらい、暖かく成ったら行き付けの理美容院などに出向き協力関係を築いている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人や家族の希望する掛かり付け医で受診出来る様になっている。急変したとき等は掛かり付け医の指示を受けながら家族と連携をとり対応して居る	受診は本人及び家族等の要望を把握し、希望のかかりつけ医の受診をしている。月1回の訪問診療もある。かかりつけ医以外の受診は家族が付き添っている。訪問診療時の結果や家族や職員での付添いの結果報告はお互いに行っている。適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとられた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の急変等に気づいた時は掛かり付けの看護師にまず相談指示を受けることが大いにある母体施設の看護師も吸痰等協力を要請する事もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を提出、早期の退院を望むことを伝えている 退院時はカンファレンスを持ち病院関係者との情報交換に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時重度化に成った時など説明に加え、医師の方からも家族へ説明して居る 週末ケアの経験を今後も生かして最後までお付き合いしていきたいと思う。	重度化や終末期については申し込み時に説明し、ホームのかかりつけ医も交えて家族と話し合っている。食事が摂れなくなった時点や状態が変わった段階の時に再度話し合いをしている。ホームは家族の協力を得て終末期の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体施設で職員の要望に応え緊急時の対応に備えAED使用方法等救急専門員から学び実践力を身に付けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年8月5日台風5号による大雨洪水警報が奄美地方に発令され、母体施設と連絡を取り合い、職員を緊急徴集し、利用者9名大雨の降りしきる中母体施設に搬送した。側を流れる川の数位は中程で施設職員で移動が出来ると判断し近隣住民への呼びかけはしなかった。火災訓練は消防署の協力を得て年2回行っている	夜間想定での火災避難訓練を消防署や地域住民の協力も得て年2回実施している。母体施設と合同で避難訓練を行う事もある。非常時の食料のおにぎりや缶詰・カップラーメン・水等を一週間分備蓄している。オムツや暖を取る為の毛布なども用意しており、スプリンクラーも設備している。発電機は母体施設で準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	施設自体が楕円形になっていて部屋の中が見渡せ、排泄、就寝時は居室入り口、又はカーテンを閉めプライバシーを損ね無いよう気配りして居る	プライバシーの確保については母体施設で研修に参加している。マニュアルもある。居室トイレでの排泄時にドアやカーテンで遮りプライバシーを保てるよう配慮している。自室のドアをノックしてプライバシーが保てるよう配慮している。不適切な言葉かけに気づいた時は職員間で注意し合うようにしている。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	表情や反応を注意深く見守り自己表現が出来る様努めている		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	無理強いはしないように、個々のペースに合わせた生活をして貰っている。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	理美容院も本人の好みを優先している。予約や送迎は職員、その人らしい身だしなみができるよう支援して居る		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは母体施設の栄養士が立てているのを主に使用している。お隣近所から頂く物、寒い時の山羊汁や魚汁、体調を崩して居る方には消化の良い食事等、利用者の意向を聞きながら職員も一緒に食事を楽しんで居る。	野菜の下搾えやテーブルやお盆拭きなど職員と一緒に行っている。差し入れの野菜を利用者に見せて何が食べたいか、どんな調理が美味しいかななど会話をしている。ホットケーキのおやつ作りの時にも利用者と一緒に作っている。故郷巡りの時や遠足の時にお弁当を買って景色のいい所で食べる楽しみも提供している。風邪の利用者にはお粥に変更する等の気配りで対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方、刻みやミキサー食と個々に合った食事をたべてもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後歯磨きやうがいに声を掛けると素直に応じる様になった。意思疎通の取れない方は職員が口の中を清潔にして居る		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で時間帯を把握トイレで排泄出来る様支援している。夜間帯はベッドをトイレ近くに寄せて移動見守りしながら排泄援助しオムツの使用枚数を1枚でも減らす事が出来る様支援して居る	排泄チェック表にて誘導し、失敗することが少くなり、リハビリパンツから布パンツに変更になった事例がある。夜間はベットを移動させトイレに行きやすくするなどの工夫で排泄の自立に向けた支援ができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録表を常に把握、食材にも気を付けながら頑固な便秘は主治医と相談、薬に頼る事も多くある			
45 17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回と一応曜日は設定されて居ます。体調崩して入れなかつた時、汗を搔いて入りたいと希望のある方は、いつでも入れる体制にあり個々に応じた支援をして居ます。	入浴は週に3回支援している。失禁した時に入浴できるように配慮している。入浴拒否の利用者には時間や曜日を変更したり職員を替えたする等の工夫で入浴を楽しめるよう支援している。好みのシャンプーやリンスで入浴を楽しむ利用者もいる。出入り口のガラス戸にプライバシー確保の為のシールを貼り対処している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤として飲んでる薬はビタミン剤、本人は安心して眠っているので眠剤処方は止め、ベッドからの転倒事故は無くなった			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルをケース事に綴り処方変化の有った時は申し送りで知らせ、薬には日付を書き朝昼夕に分け個々にセット、飲み忘れの無いようにしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	言葉が少ない方がカルタを読むと声が出ている。移動を不安がる方にテーブル拭きを依頼、出来た時の喜びは大きかった		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調の許す限りは外出の機会を多く持つことにして居る。故郷巡りを取り入れ1時間かけて行くと病弱の弟さんが待って居て1年ぶりの再会に感動、家族が受け入れて下さる事に感謝、母体施設、町行事等は常に参加し家族や地域の方達と過ごす時間を作るよう努めている	日常的には毎朝のゴミステーションへの散歩や玄関先での日光浴や体操を楽しんでいる。お盆に故郷巡りや年2回ドライブで桜の花見の計画を立てて出かけている。母体施設のデイサービスに行き、一緒に楽しんだり、母体施設の保育園の運動会に行きおにぎりやトン汁を味わう等、支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員の見守るなか支払いはあくまでも自分で、買い物依頼は自分で出来る様、職員は手助けしている。お金を手持ちして居る利用者は少ない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月手紙で状況を知らせ、声を聞いたり聞かせたり、元気な姿を声で聞かせ、安心感を持たせて下さいと家族会でも要望した		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「施設は臭いがあってはいけない、良い施設作りは臭いから」と言う施設長の言葉が今も響いている。広い空間の中には食事をする、運動をする、レクを楽しむ、みんなの居場所が心地良く過ごせるよう努めている	円形型の広い共用のホールには吹き抜けの高い天窓があり明るい。夏場にはホール天窓を開閉し涼しい風を入れ込むなど夏場の熱中症対策に備えている。台所では食事後に利用者が職員と一緒に後かたづけをしている。浴室は窓からの陽ざしで日中は明るい。冬場のインフルエンザ対策として共用のホールには大型の乾湿器を設置し、食堂前やホール壁にもクリーンメーターや室温機メーターを設備し安全で居心地く工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来が出来る共用空間の中で、テレビを観たり歩行練習をしたり自分の思うままに過ごせるよう職員は居場所作りに努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	このベッドは妹たちが自分の為に買ってくれた物だと言う方、枕をみて眠りに着く方、使い慣れたお箸やお茶碗を見て食卓に着く等本人が居心地良く過ごせるよう考え方工夫をしている	居室に備え付けのベットや棚・トイレ付きの洗面台等が設置している。自宅で愛用している馴染みの枕や小物類・家族の写真などを持ち込んでいる。ホールと同様で居室にも乾湿器が備えられており、インフルエンザ感染時期には更に濡れタオルを下げる等の工夫で個々の利用者が安心して過ごせるよう配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>テーブルや部屋の入り口に名前があると安心すると言うので名前を付け、部屋入り口にフレリーの写真を貼り、自立した生活を出来る様支援して居る</p>		

V アウトカム項目

		<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目 : 36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

		<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全部面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2 少しづつ増えている
		<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない